

—第10編— タウンシップという名のスラム

タウンシップ (Township) とは、かつて人種隔離を図ったアパルトヘイト政策下の南アフリカにおいて、都市部周辺に設置された黒人強制居住区域のことである。1950年のグループエリア法^{*2}を受けて、都市部に住む黒人居住者は、タウンシップに強制的に移住させられたのである。1994年にアパルトヘイトが廃止された後の現在も、一般的にはかつての強制居住区域を指して、タウンシップという用語が定着している。

非英語圏の我々にとってはどこか違和感のある名称だが、元来北米では、かつての西部開拓時代に施行された土地区画制度をこう呼んだ。公有地分割制度とも訳される。1862年のホームステッド法^{*3}によって、入植者が5年間そこに住み続けると、約800m四方の土地が供与された。この制度は入植者による公有地の開墾を促すことになる。ケープタウン周辺で最も古いタウンシップ「ランガ (Langa)」もそれに似ていて、非合法でもさんざん危険を冒して北の隣国から入植し、一定期間住



写真10-1 タウンシップ・ランガの家並み

*1
Apartheid: 南アフリカで実施された人種隔離政策(1948~1994)。アフリカーンス語で分離、隔離の意

*2

Group Areas Act: アパルトヘイト政策下の南アフリカで、非白人居住地为市街地から分離する目的で1950年に制定

*3

Homestead Act: アメリカ西部の未開墾地を、一定の条件下で無償払い下げを認めた法律。1862年リンカーンが署名し発効。自営農地法とも呼ばれる

み続けるとそこが住居として認められた。

ランガを国際会議の合間に訪れた。ここでは1990年に共同水道設備の設置が始まったが、排水溝が未整備のため、衛生面で大きな問題を抱えていたという。しかし、2010年には域内すべての排水溝設置工事も完了し、生活環境が大幅に改善された。生活支援施設としての市場はもちろん、古いコンテナを活用した様々な店舗が並ぶ。携帯の貸し出し用のコンテナ^{写真10-2}まであり、周辺との不思議なミスマッチの光景に現代情報化社会の趨勢を見る思いだった。またここでは、幼稚園を初め、生きていくために技術を身につける職業訓練センターがあり、女性は織物、男性は焼き物などの技術を習得している姿を見ることが出来る。作品はフリーマーケットやお土産店にも並んでいた。また観光客向けの民宿もあり、かつての悲惨さからは程遠い様相を呈している。



写真10-2 コンテナの携帯サービス

それでも、大半がブリキを集めて作られた家々が続くスラムであることに違いはない。昔ながらの生活を余儀なくされる黒人たちは、ここから抜け出るための人生を夢見る。流暢な英語で案内してくれたランガ出身の青年は、大学教育を受けてそれに成功した者の一人である。アフリカに限らず、世界に目を広げればこうした居住環境を強いられる人々は数知れない。このことを忘れてはならない。



写真10-4 ランガの公営職業訓練所



写真10-3 ランガの公営幼稚園